

ま な び

MANABI

画報

プール学院



◀中学生の美術部員は15名。高校生と合同の部活動で教えられ、刺激を受け、精神的にも成長していく。美術部おそろいのTシャツには、これまでの先輩から脈々と受け継がれてきた心得が。



▲大阪私学美術展へは美術部員は原則全員参加。来年度からの「芸術系進学クラス」の生徒も参加の予定だ。「ただ勉強するだけでなく、展覧会に参加することで作品を創る喜びを知ってほしいのです。また、人から評価や意見をもったり、他校の生徒の作品を見ることもよい刺激になると思います」(内山先生)

先輩から後輩へ受け継がれる クリエイティブな伝統



▲展覧会を控え、制作に取り組む生徒一人ひとりに美術部顧問の内山先生が的確なアドバイスを与えていく。「写実的な作品を描く生徒もいれば、抽象的な作品の生徒もいます。それぞれの作風を大切にしながら、長所を伸ばすように指導しています」

▶大阪私学美術展で最高賞の大阪府知事賞を受賞し、京都芸大へ進んだ先輩や愛知県立芸大から東京芸大大学院へ進んだ卒業生など、伝説の先輩の背中を追いかける生徒も多い。

◀朝の始業前や昼休みに美術室へ来て、ひたすら石膏像のデッサンをするのも、先輩から受け継がれた伝統。「デッサンの基礎力をつけるのは大切なこと。『芸術系進学クラス』ではデッサン、色彩、制作の科目がありますが、それに備えて高1の希望者を対象に、週1回デッサン補習を行っています」(内山先生)



一人ひとりの才能を伸ばし芸術の道を
目指す生徒も
しっかりサポート
大阪私学美術展や吹奏楽のコンクールで常に上位入賞を果たしている同校。学力だけにとどまらず、音楽や美術、スポーツなどを通して心を豊かにする情操教育にも力を入れています。
「美術の時間で大切にしているのは、ものを見て素直に感動し、それを物まねではなく、自分なりの方法で表現すること。感受性豊かな心を育てていきたいと思っています」
(美術部指導・内山直樹先生)
美術部や吹奏楽部からは、毎年、芸術系の大学へ進む生徒も出ています。そこで同校では、来年度の高2から「芸術系進学クラス」をスタートします。
「本気で音楽や美術の道を目指す生徒もいるので、そうした生徒たちのやる気をしっかりバックアップしたいと考えているのです」
(副校長・内海伸晃先生)
さまざまな才能がさらに大きく伸びていきそうです。

ここに注目!

芸術面の才能を 評価する入試制度も スタート

芸術系の大学を目指す「芸術系進学クラス」が、いよいよ2013年度の高2からスタート。カリキュラムには、音楽・美術の専門科目のほか、演劇やバレエなど総合的に芸術の力をつける科目も組み込まれています。これまで東京芸大や京都芸大などに生徒を送り出しているため、受験対策のノウハウもすでに蓄積されており、万全です。

また、高校入試では昨年度から、学科に加えて音楽または美術の実技テスト選択も可能に。学力だけでなく、一人ひとりの才能や可能性を伸ばす同校ならではのといえるでしょう。

毎朝の聖歌の合唱や美術作品に 囲まれる環境で心豊かに



▲大阪私学美術展で奨励賞を受賞した作品。美術部では、展覧会において50号サイズ(縦1167mm)以上、最大で100号サイズ(縦1621mm)という大作の制作に挑戦していく。
▶カフェテラスの壁面を飾る絵画の数々はすべて生徒の手によるもの。美術作品に気軽に親しむ環境に加え、毎朝の礼拝時の聖歌の合唱など、日頃から音楽や美術に触れる環境の中で豊かな心が育まれていく。



大好きなことが授業に! 充実感がさらなる向上心を育む



▲昨年度から始まった高校「特進コース」の実技入試や、事前に行われる実技入試受験者対象の芸術実技講習会には吹奏楽部志望の生徒も数多く集まっている。「中学の吹奏楽のコンクールと一緒に他校の生徒が、『一緒に演奏したいから』と高校に入学してきてくれるケースもあります」(内海先生)

◀美術部だけでなく、弦楽部や吹奏楽部から芸術系大学へ進む生徒も多い。「これまでは部活動や放課後にしか練習できなかったのが、来年度からの『芸術系クラス』では授業時間内に科目として音楽や美術に打ち込めます。その充実感は大いだと思います。好きなことにはがんばる彼女たちが、学校全体にもよい影響をもたらしてくれるのではないかと期待しています」(内海先生)